



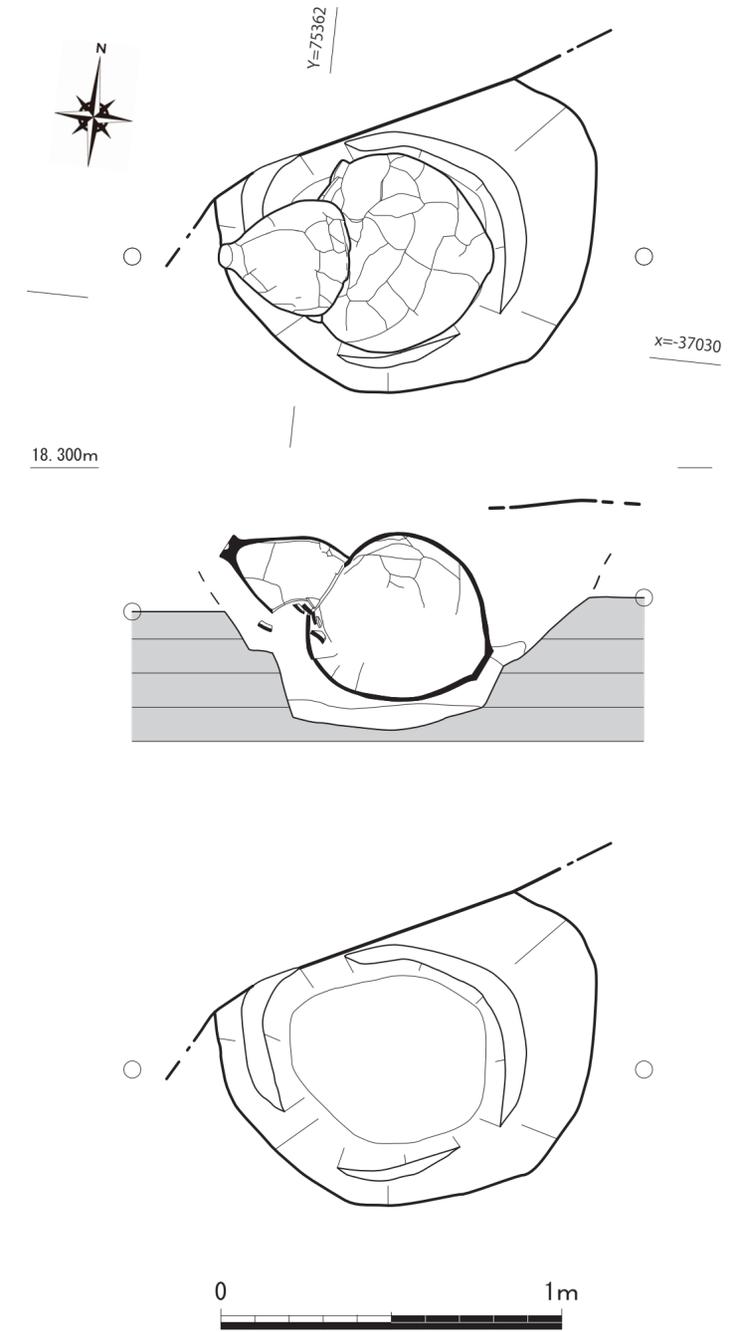
小児棺全体写真（上…甕、下…壺）

しょうに かん
小児棺

かめ かん ぼ
甕棺墓群の中で最初に確認されました。調査の結果、あわせぐちかめかん
合口甕棺と呼ばれる2個の甕の口縁を合わせた埋葬形態であることがわかりました。合口甕棺は上甕と下甕で構成されており、下甕は壺の形をした土器と判明しました。上甕が甕形土器、下甕が壺形土器とする組み合わせは乳幼児を埋葬したと言われていますが、下甕の口径（直径）が30 cm以下で狭いことから、甕と壺の組み合わせは乳幼児を対象とした埋葬形態であったと言えるでしょう。今回出土した小児棺は、壺（下甕）に遺体を埋葬したことを考えると、甕（上甕）の部分は蓋の役割を果たしていたと思われます。



あわせぐちかめかん
出土状況（合口甕棺）



実測図

（上…平面、中…断面、下…完掘）